

平成 28 年度

東海文化専門学校 事業報告書

平成 28 年度は学力の向上と定着を図るために、国・数・英の 3 科目の習熟度別クラスを継続し、さらに授業に対応している検定・資格試験の合格率を上げることを目標に取り組んできた。

生徒指導については、挨拶をきちんとする、身だしなみを整える、時間を守るということの徹底を図ってきた。安易な遅刻をする生徒には繰り返し指導をし、改善に向けることができた。

1 学習指導

資格検定の合格・グループ校への進学

- ①資格検定については前年度と比較して、全体の合格率は微増しているが、今後も合格率をさらに上げて行くことは課題である。受験者全員の合格を目指していく。
- ②今年度初めての資格取得者の卒業を迎えた歯科助手については、静岡歯科衛生士専門学校の先生方に授業を担当していただいたことで、歯科衛生士への関心が高まった。
- ③こども健康福祉科では福祉系の授業や初任者研修の授業を静岡こども福祉専門学校の先生方に多く担当していただいたことで、進学への意欲が高まり、グループ校への進学希望者の増加につながった。

2 生徒指導

- ①挨拶を習慣化させるために職員室への入室の仕方を改め、全生徒に徹底した。生徒自身による挨拶運動を実施し、生徒同士があいさつを交わす機会を意図的に設けることで、自然と挨拶のできる生徒が増えてきている。
- ②身だしなみを整えることを意識させるために、教員が服装の乱れを見逃さないことを心がけた。
- ③前年度からの継続指導により、教職員が働きかけるだけでなく、生徒の中から時間を意識した言動が出るようになってきている。さらなる定着に向けて指導を繰り返していく。

3 進路決定・生徒募集

- ①3 年生は各自の希望の分野での進学就職を決定するために、全教職員が指導に当たった。結果、全員が希望した分野での進路決定をすることができた。
- ②新入生の確保については、両科とも定員を下回ってしまい、課題を残した。次年度以降の生徒募集については、年度当初から活動を開始したい。

平成 28 年度

静岡こども福祉専門学校 事業報告

本年度、静岡こども福祉専門学校は創立 34 年を迎え新たな一步を踏み出した。

福祉の黎明期から成熟期ともいえる長い期間に 2,360 名の卒業生を送りだした。福祉に携わる人材の重要性・必要性はいまさら述べるまでもないが、少子化や産業界の大きな変化、家庭の経済状況も厳しくなり本校も学生減少の影響を受けている。

そのため下記のような特徴ある教育課程を行うこととした。

従来のこども福祉学科からこども未来学科に名称変更、さらに教育課程変更、修業年限変更、取得資格の変更、連携教育の廃止などを実施した。その結果、より実践的で学生自身がより確かな将来目標をもって学んでいる。

学校法人立の静岡こども福祉専門学校の学校運営をより確固とするためにも学生確保に最大努力をしなければならない。こども未来学科については定員を確保することができ、介護福祉学科も前年の 2 倍の学生が入学した。

教職員は担当する教科目に実務経験を大きく活かす事が出来ているために、学生も信頼して積極的に取り組んでいる。

学校内外の施設整備は保育や介護の現場を再現したディスプレイやレイアウトを心がけている。

教育課程編成委員会を開催し、教育課程について外部の意見も取り入れ活かしている。学校の自己点検評価も全教員に対するアンケートを実施し評価を行い教員に還元している。

平成 28 年度事業報告

静岡新美容専門学校・静岡歯科衛生士専門学校

【達成事項】

- 1.美容師国家試験全員合格
(3年連続全員合格・静岡県内美容師養成校唯一の100%合格)
- 2.就職 美容学科、歯科衛生学科 卒業生全員専門職就職決定
- 3.美容学科 専門課程入学定員充足

【未達成事項】

- 1.歯科衛生学科 歯科衛生士国家試験不合格者 2名
- 2.美容学科 高等課程入学定員 歯科衛生学科 昼間部、夜間部入学定員充足に至らなかった
- 3.美容学科 退学者 例年より増加